

## <松沢知事来校>

10月18日（木）9時30分、松沢知事が本校に来校されました。知事は、公私立を問わず、教育分野に関する先進的な取り組みを実践している県内の学校現場を月1回のペースで訪問しています。

本校の教育活動の一端を知事に見ていただけるということは、大変名誉なことであり、一同感激してお迎えしました。

校長より学校概要の説明の後、学校評議員の松波正利さん（松陵会副会長）、木村泰久さん（平塚市立なでしこ小学校長）、PTA副会長の浜崎喜美子さんと懇談会がもたれ、学校評議員及び保護者の立場から、お話をいただきました。

松波さんからは、災害時の避難所となる本校の校門の鍵を町内会長が預かっている点と、体育館の老朽化の話がありました。

知事より、鍵については、大変よい地域連携であり、老朽化問題は、優先順位があり、10年計画で推進していくとのことのお話をいただきました。

木村なでしこ小学校長より、小学校の学校行事「みんなの時間」で、本校環境化学系の生徒による、化学マジックショウ（今年で4回目）が行われ、児童は大喜びで、工業技術教育への興味関心が高まっているという、うれしいお話をいただきました。

知事から、来年度から始まる東海大学との連携に先駆けて、小学校との連携ができている点についてお褒めの言葉をいただきました。

浜崎PTA副会長は、2007ワールド・ソーラーバイシクル・レースにおいて、総合優勝を果たした本校社会部チームの保護者応援団として、秋田県大潟村に行きました。3年間本校で学び、立派に成長したわが子の姿に感激し、顧問の白澤教諭と小澤教諭のこれまで指導に感謝しているというお話をされました。

1位、2位を独占した、社会部の快挙に、浜崎さんの感激を、知事は、ともに味わわれるかのごとく感心されていました。

次に、知事は自動車工場での実習授業を見学されました。本校は、神奈川県内で一種自動車整備士養成施設の認定を受けている唯一の高校であり、知事は、実習内容について説明する生徒の話に耳を傾け、生徒全員に声をかけ、励ましの言葉をくださいました。

次に、自動車工場前ロータリーで、社会部生徒より、全国大会で優勝したソーラーカーの説明を受け、環境問題を克服するには電気自動車の時代の到来を早めなくてはならないと、生徒の取り組みを大いにたたえ、励ましの言葉をいただきました。ソーラーカーには、横幅及び体重の関係で試乗することはできませんでしたが、同じく社会部が作成した電気自動車に試乗し、後ろに、大会に出場したソーラーカーが2台伴走しました。知事は、後ろを振り返り振り返り、「みのむしがついてくる」と楽しそうにロータリーを2周されました。

次に、生徒会執行部と電気部生徒との懇談会がもたれました。

知事は、一人ひとりに平塚工科高校に入学した動機をたずねられました。7月30

日に県立神奈川工業高校で行われた高校生ものづくりコンテスト・電子回路部門関東大会で、1位、2位を独占した3年の関水正裕君はものづくりが大好きで、同じく3年の後藤君は、コンピュータプログラミングに興味があり本校を志望したと答えました。優勝した関水君は、11月に静岡県沼津市で開催される全国大会に出場します。知事は、電気部の健闘をたたえ、目標、夢を持つことの大切さを説かれました。また、知事は要望等あれば何でもどうぞと言ってくださいましたが、生徒会としては、特にお願いすることはないという返事に、「それほどいい学校なんですね。」と笑顔で応じられましたが、事前にわかっていたら、指導できたのにと残念に思いました。生徒も職員同様緊張気味でしたが、和やかに懇談を終えて、記念撮影をしました。

1時間半という訪問時間の中で、あれも見ていただきたい、これもお話ししたいと思いましたが、何でもお見通しのように、県民の負託を得てなられた方の存在の大きさ、豊かさを感じさせられる、体験でありました。

(投稿) 平塚工科高校 副校長 二ノ宮 哲夫